

児童の反応・感想

お話A (自作教材)

ある森がありました。生きものたちが遊んでいます。そこにカモノハシさんがやってきました。カモノハシさんは、遊ぶのが大好きです。みんなと遊びたくてたまりません。

まず、魚さんに声をかけました。

「ねえねえ、魚さん。一緒に遊ぼう。」

すると魚さんはカモノハシさんをじっと見て言いました。

「君とは一緒に遊べないよ。変なくちばしや毛があるから、ぼくたち魚の仲間じゃない。あっちに行け。」

そこでカモノハシさんは、鳥さんに言いました。

「ねえねえ、鳥さん。一緒に遊ぼう。」

すると、鳥さんが言いました。

「いやだわ。あなたには羽がないし、おちちで子どもを育てているからわたしたちの仲間じゃないわ。あっちに行って。」

カモノハシさんは、悲しくなりました。でも、勇気を出して牛さんに言いました。

「ねえねえ、牛さん、ぼくと一緒に遊んでくれない？」

すると牛さんは言いました。

「いやだよ。だって君は、たまごを産むんだろ。変な水かきもあるし、ぼくたちほ乳類の仲間じゃないよ。あっちに行け。」

カモノハシさんは、とても悲しい気持ちになりました。森を出てとぼとぼと歩いて行きました。ずうっとずうっと歩いたところに、別の森がありました。その森では、みんながとても楽しそうに遊んでいました。

内容を把握するために挿絵を提示する。

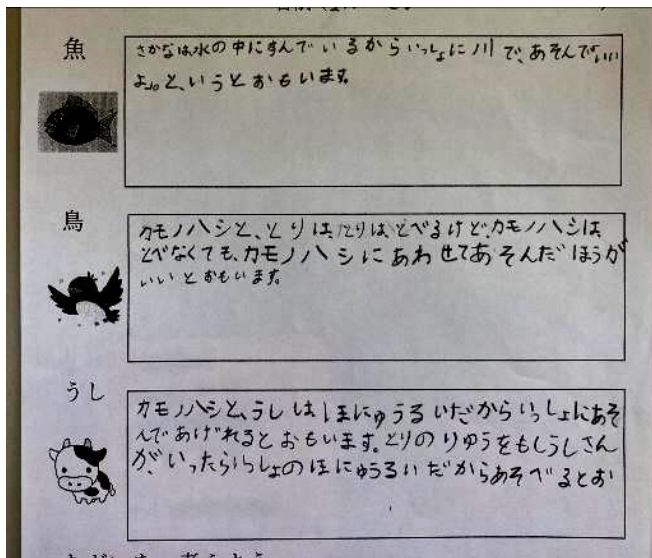
※内容は、上記「お話A」



お話Aとお話Bの違いを考える。
違いが分かりやすいように板書を工夫する。



児童のワークシート



児童の感想

- ほにゆるいのなかまの中では、とくちょうがちがっていても、なかまはずれにははいけないし、それはおかしいと思う。
- 考え方のちがいで、ちがうところを見るのではなく、できることやよいところを見つけることがたいていせつだと思った。
- あってもいいちがいとだめなちがいのべんきょうをして、よくわかった。人それぞれちがうことがあるから、ちがってもいいと思う。

※自作教材のお話Aを作ったことで、当事者の悲しみ苦しみに迫ることができた。その上で、自分たちには何ができるかを考えることができた。

※「あってもいい違い」「だめな違い」については、これまでも道徳や学級活動の時間に継続して考えさせてきた。そのため、本授業でも子どもたちは考えやすかったようである。違いを認め、それを受け入れようとする態度は育ってきていると感じる。

※本授業では、カモノハシのできること、良いところを認め、仲間として受け入れるという考え方はできていた。更にできること、良いところがなくても、ありのままですべて受け入れるという捉え方へ高めていきたい。